



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：タラバーニ・イラク大統領の訪問

(6月26-27日付 IRNA)

1. 6月26-27日、イラクのタラバーニ大統領がイランを訪問し、ハメネイ最高指導者(26日)、アフマディネジャード大統領(26日)、モッタキ外相(27日)と会談した他、26日にはイランで療養中のハキーム・イラク・イスラム最高評議会議長を見舞った。

2. ハメネイ最高指導者との会談

(1) ハメネイ最高指導者の発言

イラクにおける最大の問題は、占領軍の駐留と治安の悪化である。イランは、国民により選挙されたイラクの現体制関係者を強く支持する。

イラクの歴史においてイラク国民がその責任者の選出に参画するのは前例がない。イラクの現状に反対する者はイラク国民の要望及び利益に反対する者であり、それを代表しているのは米国及び英国である。残念ながら、一部の地域諸国もイラク国民の利益に反する形で活動している。

イランはイラク政府及び国民に対し、治安回復の為のあらゆる協力を行う用意がある。米国はイラン・イラク関係の拡大に反対し、混乱を生じさせようと努めているが、そのような混乱に立ち向かうべきである。

イラク国民、特に政治・文化関係者間の更なる団結・連帯が必要である。イラクでの治安悪化及び最近の悲劇の首謀者は、米国、シオニズム体制(イスラエル)及び彼等と共にある一部の国の諜報工作員である。

このような情勢下、地域の人々及び国家は、自ら連帯、統一性を強化し、傲慢な大国に対抗していく他に道はない。地域の人々は相互支援により大国に抵抗する力をもつこととなる。望めば実現できると人々が決意すれば、米国をも屈服させることができる。

(2) タラバーニ大統領の発言

イラク政府はイランとの関係拡大が必要と考え、真剣且つ敵の思惑にも拘らず、それを追求しており、如何なる外国の圧力にも屈することはないであろう。

(イラクでの治安悪化、治安警察の装備の不十分さに関し)現状において、イラク警察の5人に1人のみが武装している。イラク政府は様々な方法で警察・軍隊の武装化及び治安悪化との対峙に措置を講じようと努力している。